

あるある研修③ 「不安な幼稚園生活」

■ 主な内容

- 新学期を迎え、1カ月が経った5月
- 年少組に入園した A ちゃん。おとなしく少し不安そうにしていたが、毎日登園し、幼稚園生活も頑張っていた。
- ゴールデンウィーク明け、玄関でお母さんと離れられずに泣いていた。お母さんも急に泣き出したことに驚いている。
- お部屋でも泣き止まず、保育者のそばから離れられず、自由遊びの時間も保育者の膝の上で過ごす。
- 家でも夜になると『明日も幼稚園行くの？』と泣いたり、朝も『幼稚園行きたくない』と言って泣き、お母さんも困っている。

■ 幼児と保育者のようす

- 保育者：『A ちゃん、おはよう！』
(お母さんに手を引かれて、泣きながら登園)
- A ちゃん：『ママ、幼稚園嫌だよ！おうちに帰りたい！』
- 保育者：『A ちゃん、今日はママにお願いして少し早めにお迎えに来てもらおう。それまで先生と一緒に遊ぼうね。何して遊ぼうか？』
(お母さんに相談し、少し落ち着くまで早めのお迎えにしよう。)
- (保育室に入った A ちゃんに I ちゃんが声をかける。他の子はおままごとやブロック遊びをしている。)
- I ちゃん：『A ちゃんもおままごとする？ はい、りんごジュースです。どうぞ！』
(泣き止まずに保育者にしがみついている。)
- (I ちゃんたち数人の子が自由画帳でお絵描きを始める。その様子を泣きながら見ていたので、保育者が声をかける。)
- 保育者：『A ちゃんもお絵描きする？』
- A ちゃん：『うん・・・』 (I ちゃんたちのところで一緒に自由画帳を広げる。)
- 保育者：『何を描こうかなー？』
(アンパンマンを描いてみた。)
- A ちゃん『アンパンマンだ。』
(自分でクレヨンを持って、アンパンマンを描き始める。)
- 保育者：『上手！先生より上手！！』
- 周りの子たち：『上手！すごい！』
- A ちゃんはとても楽しそうにしばらくの間絵を描いていた。
- 泣きながらの登園はしばらく続いたが、お絵描きをしているときは、とても楽しそうにしていた。絵を描いているときは子ども同士に任せ、保育者は少し離れて見ていた。
- 泣いていない時間も少しずつ長くなってきた。お絵描きだけでなく、ブロック遊びにも興味を示し始めるようになった。
- 泣き始めてから1カ月程で、笑顔でお友達と遊ぶ姿が見られるようになった。
- 家でも幼稚園の話をするようになり、お母さんも安心している様子。泣かずに登園できるようになった。

ワークシート③（不安な幼稚園生活）

■ 協議してみましょう

○ このように後から泣き始める園児にはどのように対応するのがよいか？
（個人思考）
（グループ・全体協議）
○ このような園児をもつ保護者の不安はどのように解消してあげればよいか？
（個人思考）
（グループ・全体協議）

※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3つの柱や5領域等の教育活動の拠り所も意識するようにしましょう。

③ 「不安な幼稚園生活」

■ この園での取組

- 入園当初の4月、泣いている子は数人いたが A ちゃんは泣かずに登園していた。初めての集団生活で不安そうにしている、頑張っている様子が見られたので、保育者も気にかけていた。
- ゴールデンウィーク明けに突然泣き出す。保育者はある程度想定していたが、保護者は驚いていたので一緒に考えていくよう連絡を密にした。
- 当分の間、早めのお迎え(子どもの見通しがつくように、なるべく同じ時間)をお願いする。また、泣き止む時間もあること、お友達の様子を見ていること、A ちゃんなりに頑張っていることなど、園での様子をお伝えし保護者にも少しでも安心してもらおう。
- 活発な子に声をかけてもらったり、輪の中に入れるように促したり、気分転換に中庭へ誘ったりし、どんなことに興味があるのか、好きな遊びなど保育者も一緒に探しながら接した。
- お絵描きをしているお友達をじっと見ていたので、声をかけてみた。自由遊びのときは、いつでもお絵描きをできるようにし、お友達の輪の中にいるときは、保育者は遠くから見守るようにした。

■ ワンポイント

- 例年見られる、後から泣き出す子どもへのかかわり方について考えてみる。
- 担任だけでなく、玄関やバス等、クラス以外での活動の時間の様子を職員で共有できるようにするための工夫を考えてみる。
- 保護者への対応について、子ども同様色々なタイプの保護者がいるので、ベストな対応はどのようなものかを考えてみる。

あるある研修 ④

『～子どもの「〇〇したい」に寄り添う保育～』

コロナ禍のなかで

■ 幼児と保育者の様子

- 子どもたちは冬を前に、寒さも忘れ元気に戸外での遊びを楽しむ。年長児ともなると『想像力を発揮し、お友だちとの関係も深まり頭を寄せながら、じっくりと遊ぶ姿が見られる。
- 何をしているの?と尋ねると「宝探し・・・」と元気に答えてくれた。
- コロナ禍の中で地域での感染状況は違うが環境や留意することが多くなり、感染リスクを踏まえた対応を常に求められている。
- 写真にもあるように園児はマスクを着用しての遊び・・・
マスクをしていても年長児は返答もできるが、年少児や支援の必要な子どもたちの促しには苦慮している。



ワークシート ④ (「～子どもの「〇〇したい」に寄り添う保育～」コロナ禍のなかで)

■ 協議してみましよう

○ コロナ禍の中で保育者が戸外での遊びだけではなく、室内においても幼児が〇〇したい、やりたいと主体的に遊びを楽しむことができる工夫を考えてみましょう。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ これまで疑問に思わなかった『マスク』での関わりで、年長児ともなると言葉のやりとりで伝わることも多いが、年少児など、まだ上手く話せない子どもたちへの対応や、困っていることなど職員同士で話してみよう。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3つの柱や5領域等の教育活動の拠り所も意識するようにしましょう。

研修のねらい 特別に配慮する児への行事参加を振り返り、子どもの理解を全体で深める

当園では10月末に『おゆうぎ会』を例年と同様に市内文化センターで実施。

コロナ禍の中での行事とあり、今年度は学年ごと(3部制)とし、保護者の人数制限や参加者名簿提出、感染予防に努めながらの開催。おゆうぎ会担当者が計画案を職員会議に定義し、ねらい等の確認をし、進めてきた。

『子どもたち一人ひとりが主役』であること、練習時間を配慮し、日々の遊びや生活の連続性を失わないようにすること。発達段階によるねらいを把握し、心を解放し、表現することの楽しさを大切にすることを目的とした。

園内研修とした理由

●保育者の様子

これまでのおゆうぎ会とは異なり、コロナ禍の中で行事のあり方を見直し、感染予防に努めながら、日々奮闘する保育者の姿がある。

支援する子どもたちとの対応にも苦慮しながらも、一人ひとりが『子どもの気持ちに寄り添い』育んできたことを職員間で互いを認め合い、励まし合い、振り返る学びから園全体で理解を深めようと研修に至った。

就労時間内にできる工夫と密を避け、学年ごとのグループ討議。



年長児・学年グループ討議の様子

ワークシート内容

- ・これまで配慮したこと
- ・関わりの中で難しいと感じたこと
- ・子どもの表情から、読み取れるもの・感じたこと
(当日の子どもの姿・写真をみて)
- ・関わりの中で『嬉しい』とかんじたこと
- ・今後の関わりの中で配慮していくところ

学年リーダー(ファシリテーター)

グループ討議での配慮

- ワークシートを活用しながら、おゆうぎ会、当日の写真をみながら、一人ひとりが感じていることなどを発言。補助教諭(パート職員)も共に学べるように就業時間内(30分研修)で実施。

特別支援コーディネーター(主任)



グループ討議まとめ



全体協議 (定例職員会議)

☆これまで配慮してきたこと☆

- ・どのクラスの子どもたちも衣装が着れない(こだわりが強い・過敏がある)児への対応として、衣装を早めに作り、視覚提示・実際に手に触れさせることからはじめ、繰り返す中で徐々に慣れていった。
- ・立ち位置などは、好きなキャラクターのシールを貼り、覚えやすくなった。
- ・子ども同士の関りを大切にお世話をしてくれる子どもたちの力を借りながら、また、そのことが子どもに負担にならないように配慮した。
- ・クラスが覚えやすい振り付けにし、違う踊りになってもさほど差が見られないように振り付けを考えた。

その他にもクラスとして配慮されて、本番を迎えたことがより分かりやすく、共有できた。

また、☆関わりの中で難しいと感じたことも同様で多くの意見があった。

子どもの表情からみて

- *全員で同じ衣装を着て、ステージにたてたこと。
- *職員と手をつないだことで安心して歌っている。
- *はじめは緊張していた子どもも、本番では『見られる』ことに喜んでいる様子が伺える。

嬉しいと感じたこと

- *楽しんでいたこと。
- *同じ役での友達関係ができ、声のかけ方もきつい子がその子に合わせた声かけになっていて凄いと感じた。
- *進めていく過程が大切。練習を重ねるごとに楽しさに変っていく様子が嬉しかった。

職員一人ひとりがこれまで配慮したことや、感じたことなど口上に示された内容はごく一部だが同じような意見があり、共感できた。

今後の関りの中で配慮すること

- *支援児だけではなく、みんなが理解していけるようにしていきたい。
- *おゆうぎ会を通して、それぞれの得意・不得意も理解できたため、いいところを少しずつ伸ばしていけるようにする。今まで気が付かなかったことに気が付くことができたので、一つでも多く伸ばしていけるようにしていきたい。
- *小学校に向けて、自信をもてたことや、苦手なところも自信につなげていけるよう配慮したい。
例(なわとびが一回でも跳べるように・・・)

ま と め

- *毎日の練習を通して、先生方が支援児に配慮して、考えていること、その配慮や積み重ねが本番の成果、成長に繋がっていた。支援児ばかりの配慮ではなく、クラス全体でうまく調和がとれるように考えていくことは今後も課題となると思う。
- *園児、一人ひとりの個性を大切にしながら、園児同士が互いを受け入れ、思いやりをもちながら園生活を過ごせるように職員全体で今後も力を合わせていきたい。

あるある研修 ⑤ 「2歳児・年少児・年中児・年長児のけんか」

■ 主な内容

- ・園の集団生活の中では、子ども達のそれぞれの発達段階における「けんか」が起こる。
- ・それぞれの事例から、学齡的な違いを見い出してその育ちに寄り添った関わり方を検討しよう。

■ 幼児と保育者のようす

【2歳児】

自我の芽生えから来る、一方通行に主張する「けんか」の事例

【年少】

たどたどしくも、言葉で自己の主張をするが自分の気持ちに折り合いを付けることがなかなか難しいことで起こる「けんか」の事例

【年中】

自分の思いや気持ちと相手の思いや気持ちの違いをぶつけ合い、自己抑制を伴った解決方法を見いだすまでの「けんか」の事例

【年長】

仲間と創り上げる過程におけるグループ間の思いの違いによる「けんか」の事例。感情だけでなく、代替案や協調案を見い出すまでの過程を読む

ワークシート⑤（2歳児、年少児、年中児、年長児のけんか）

■ 協議してみましょう

○ 各クラス担任の「けんか」事例の発表

（個人思考）

- ・私が見取る「〇歳児らしいなあ」と感じる点をまとめる

（グループ・全体協議）

- ・担当学年の違う先生方同士、「〇歳児らしい」エピソードを交換する。
- ・保育所保育指針や教育要領などを見合わせて、子どもの発達段階における姿を見いだしてまとめとする。

※本教材「2歳児、年少児、年中児、年長児のけんか」は、「研修資料2」はありません。

※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3つの柱や5領域等の教育活動の拠り所も意識するようにしましょう。

あるある研修 ⑥ 「たべられたよ！」

■ 主な内容

- 年少組で入園してきた A くん。
- 食べ物の好き嫌いや食べず嫌いのもが多く、昼食の時間は苦戦している。
- なかなか挑戦する勇気が出ず、ぽろぽろと涙を流す姿がある。
- 保育者は「少しずつでも食べられるようになってほしい」という願いと「食事の時間を楽しんでほしい」という願いがある。
- 様々な声掛けや工夫を考え、実践しているがなかなか進展がない。
- どうやったら A くんが挑戦する気持ちになれるのか、担任は毎日悩んでいた。
- そこに A くんの憧れの存在である年長組の B くんが現れた。

■ 幼児と保育者のようす

(待ちに待った昼食の時間。年少組の子どもたちは早く食べたくて、たまらない様子。)

子どもたち：「いただきます！」

(友達や保育者との会話を楽しみ、食事の時間は盛り上がっていた。A くんは、給食に苦手な野菜が入っているため、なかなか食べ始めることができず、ぽろぽろと涙を流し始めた。)

保育者：「A くん、どうしたの？」

A くん：「この野菜食べたことないから、食べたくないの…」

保育者：「そっかぁ。先生も初めて食べるものはドキドキするけど、食べてみたら、おいしく感じたことがあるよ。少しずつでもいいから挑戦してみよう！」

(A くんは、挑戦したい気持ちと食べられないという悔しさを感じ、もじもじとしていた。)

保育者は苦手な野菜を細かく刻んだり、他の食べ物と混ぜたり、食べやすくなるよう工夫をしたが、一向に進まない。そこに年長組の B くんが通りかかり、保育者は B くんに声を掛けた。)

保育者：「B くん、ちょっと相談があるんだけど…。A くんは苦手な食べ物があって、給食が進まないんだって。」

B くん：「そうなんだ。僕も年少の頃、野菜が苦手だったよ。だけど、少しずつ挑戦したら今では、大好きになったんだよね！」

(B くんは、自分の年少の頃のエピソードを話し、A くんの食事を手伝おうとしている。)

A くん：「これ食べたら、B くんみたいになれるかな…」

B くん：「うん！きつとなれるよ！だから頑張って！」

(すると、A くんは少し考えた後、勇気を振り絞って大きな口を開けた。B くんが手伝ってくれたことで、挑戦することができた。)

A くん：「やったー！食べられた！」

(A くんはとっても嬉しそう。みんなで A くんの頑張りを喜び合った。それからは、苦手な食べ物があると「年長さんパワーだ！」と言って少しずつ挑戦できるようになった。)

ワークシート⑥ (たべられたよ!)

■ 協議してみましよう

○ 保育者がBくんに声を掛けたことには、どのような意図があったのでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ あなたが昼食の際に一番大切にしていることはなんですか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3つの柱や5領域等の教育活動の拠り所も意識するようにしましょう。

⑥ 「たべられたよ！」

■ この園での取組

- 誰にでも苦手な食べ物があることをしっかりと受け止め、前向きな言葉かけを心がける。
- 就学に向けても少しずつ食べられるようになってほしいという願いもあるが、一番は食事の時間が楽しい時間になることを大切にしている。
- 天気の良い日は外で食べたり、時には異年齢混合で食べたりと環境を変える工夫もしている。
- 保護者や他クラスの保育者とも A くんの様子を共有し、A くんのを頑張りをしっかりと認める。本児の自信に繋がるよう園全体で A くんとかかわっている。
- 保育者は、B くんが A くんのを憧れの存在だったことを知っており、B くんのを声を掛けた。

■ ワンポイント

- 苦手な食べ物がある子どもに対する援助の方法や工夫は、他にどんなことが考えられるでしょうか。